

八ヶ岳 峰ノ松目沢 2016/1/17

メンバー：落合（CL・記録），齋藤（SL），平川

天候：晴れのち曇り

美濃戸口 5：10 美濃戸 5：50 峰ノ松目沢出合 7：10 7：30 稜線 13：10

赤岩の頭 13：55 赤岳鉱泉 14：55 15：20 堰堤 16：00 美濃戸口 17：20

暖冬の今シーズンは依然雪不足に悩まされているが、氷が発達しないアイスクライミングも例外ではなく、近場の氷は未発達なため標高の高い山に行かざるを得ないのが現状だ。

峰ノ松目沢は八ヶ岳の玄関口、美濃戸から程近い北沢の支流で峰ノ松目（2,567m）の肩に突き上げる沢である。

グラビア・ルートが連なる派手な南八ヶ岳というよりは名前の通り北八ツな落ち着いた雰囲気の間山だが、八ヶ岳の主峰からはやや外れた位置にあるため登攀の対照として日の目を見る事は少ない。

しかし、そういうクラシックな匂いを感じない土臭いルートに魅かれていた部分があり、田舎の泥壁クライマーたちが都会の路地裏で集うにはちょうどいい、そんなルートに思えた。

前夜は美濃戸口でテントを張りいつものように軽く飲んで就寝、明日は朝早いから早く寝ようと言ってもウイスキーをしっかりとロックで飲み続ける齋藤さんは流石だ。。

驚くことにこの時期でも美濃戸までの林道に雪は無いが、車の中のペットボトルの水は氷るので気温は十分低い、美濃戸口で朝 - 10℃程度。

圏央道が繋がったおかげで八ヶ岳もより近い存在になったが、落合・平川は氷を求めて彷徨った結果二週連続で八ヶ岳にやって来た。

2 駆車で来たので美濃戸口からアプローチ、強い山ヤになるなら美濃戸口から歩くんだよという口実でヘッドン付けて出発、と言っても峰ノ松目沢出合まで 2 時間程度なので大した距離ではない。

峰ノ松目沢と呼ばれている沢は付近にいくつかあり正式なルートの記述は少ないが、南西沢と南東沢があり、我々が今回目指すのは南西沢に当たる。

入渓点は付近にショボい沢が数本あるため分かりづらいが、沢登りならここに入るかなというやや開けた沢を進む。初見で楽しむ（取りつきを間違える？）ドキドキ感を味わうなら詳細な記述はしない方が山登り本来の楽しみ方が出来るだろうか。。

峰ノ松目沢は稜線に抜けるまで滝は全部で 10 個程度、大滝こそないが下部はアップやシーズン初めに登るには手頃な滝が多く、下部で遊ぶだけなら中間部の F 5 前後までが丁度いい。

核心は F 8 のバーチカル（V 級程度）、10m 以下の短い滝ではあるが今回は残念ながら落ち口まで繋がっておらず最後は左壁を高巻き気味に登る。草付にアイスピックとアイゼンがバチ効きしてる感覚も嫌いではないので、アイスクライミングでありながらハイライトは氷ではなくランナウトしながら登った草付壁の高巻きだったというのも泥臭さを演出してくれた。

しかし、上部に行くに連れ疲労度が増すアルパインの場合は簡単な部分こそ油断は禁物で、そこがゲレンデとの大きな違いであり体力的・精神的余力を十分残しておく事で余裕を生むし、技術的難易度はそれ程では無くても自分たちの力量を探ったり確かめながら登るにはいいルートと呼べる。

氷の状態を見極めながら判断してオリジナルのラインを繋いでいくのもアルパイン・アイスの醍醐味であるが、高巻きやガレ場のツメなどアイス以外の要素が楽しいのもまた事実で、結局冬も沢登りに限るねえ、との意見で満場一致。



ナメの回廊からの F1・25m リードの齋藤さん（上）

今回は滝のリードを三人順番でまわしながら登ったのだが、二人組ならコンテでサクサク進める状況でも、三人組でリードを交代しながらの登攀・歩行・コンテ・ロープを外してフリーで登るような状況など、様々な事が考えられる3人パーティーでの手際の悪さもあり、特に初見のルートは技術的難易度に関わらずそれぞれの課題があり反省点も多かった。



F2リードの落合（左）、上部は阿弥陀岳の眺めが良く北西稜が目を惹く（右）



F5はポカポカ陽気で日当たり全快、シャバシャバ登攀で何故か喜ぶ平川君（左）
ツメは落石に注意しながら登るが積雪状況により内容は大きく変わると思われる（右）

氷の状態は気温が高い場合、上部に行く程日当たりが良く比例するように凍結状態が甘い。

今シーズン（1/17 現在）は暖冬の影響で雪が少ないが例年積雪が多いとラッセルを強いられたり、上部は雪崩の危険性も高く、ガレ場は落石が多いので好条件を狙うのは意外とシーズンが短く賞味期限も短いのでは、と考えると今回は比較的好条件だったと思われる。



赤岩の頭から、峰ノ松目も適度な高さがあり気品がある山だ。アイスクライミングはゲレンデで登るだけでも十分楽しいが、多くの滝を超えて稜線に出た時の達成感には勝らない。

1月とは思えない雪の少なさだが、尾根上は八ヶ岳連峰が北から南へ変化する様子を望むことが出来る展望台で、アイスクライミングで登攀後にこれだけの景色が望める八ヶ岳もたまにはいいねと感じる三人だった。

下りはギアを上げて一気に下るが、赤岳鉱泉でドクターKとバツリ遭遇して疲れが癒された。。

峰ノ松目沢・南西沢は赤岳鉱泉から少し下った所から上部の様子を伺い知ることが出来る。

遠目からは氷がしっかり繋がっているかまでは判断出来ないが、アイスの偵察をする場合は双眼鏡があると便利かもしれない。帰り道は南岸低気圧の影響で中央道は雪の中を走り、山より街の方が冬っぽい景色になり、以降やっと八ヶ岳もそれなりに雪化粧しただろうか。。